

# 平成 29 年度 千早赤阪村立学校園 評価報告書

学校園名（千早小吹台小学校）

校園長名（ 當麻 裕彦 ）

## 1. 教育目標

「豊かな心」・「確かな学力」・「健康な身体」の育成

～楽しい学校・明るい学校・開かれた学校～

～人の気持ちがわかる子・すすんで学ぶ子・元気でたくましい子～

～人権意識を大切にする教師・授業を工夫改善する教師

チームを意識し緊密に連携協力する教師集団～

## 2. 経営方針

「やさしさと笑顔いっぱいの学校」をめざして

### ■「ともに学び、ともに育つ」学校づくり

○集団の中で一人ひとりを尊重し、ちがいを認め合いながら、自尊感情を高め、互いを大切にする態度を育む取り組みを進める。

○集団の中で子供どうしが互いに関わり合う中で見えてくる課題を共に考えることを通して、違いを認め合い、一人ひとりを尊重し合う関係性を育む。

○ユニバーサルデザインの観点を取り入れた「授業づくり」と自尊感情・自己有用感を高める「集団づくり」の推進

## ■「コミュニケーション能力」の育成

- 自分の気持ちや考えをきちんと伝えられる子・伝え合える集団を育てる。
- あいさつの徹底的な日常化 子供の思いや意思の丁寧な確認
- 言語活動・音楽教育の充実と活性化

## ■開かれた学校づくり

○わがふるさと（千早赤阪村）を誇りに思い、地域の人や地域の伝統に支えられた学校づくりを進める。

- 地域社会の一員として家庭・地域・社会とつながり、支え合いながら、安心して過ごせる、明るく元気な教室、学校にする。

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<p>○<u>学力向上の取組みの充実</u> ユニバーサルデザインの観点を取り入れた「授業づくり」で「ともに学びともに育つ」教育の意義をしっかりと共有し、全ての児童の学力向上に最大限の努力をする。</p> <p>○<u>支援教育の充実</u> 「ともに学びともに育つ」教育の意義をしっかりと共有し個に応じた丁寧な指導・支援の充実を図る。</p> <p>○<u>言語活動・音楽活動の充実によるコミュニケーション能力の育成</u> 自分の気持ちや考えをきちんと伝えられる子・伝え合える集団を育てる。</p> <p>○<u>英語教育の充実及び国際理解教育の推進</u> 友だちとの対話を通して他社理解を深め自己の生き方についての考えを深める授業づくり。思い意思の丁寧な確認ができる聴く力、伝え合う力の育成</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>○校内研究授業・公開授業実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科、道徳、外国語活動、支援学級の研究授業を実施。</li> <li>・ノート指導の研究「ノート見学ツアー」（2回）実施。</li> <li>・道徳の評価の研究</li> </ul> <p>○支援学級の授業を大阪府教育委員会が視察。</p> <p>○全学年で外国語活動実施。豪州公立小とのTV会議実施。</p> <p>○音読発表会を実施。言語活動の充実を目標にめあてを設定し、言語活動の充実を図る。ホームリーディング2回実施。委員会児童の読書啓発活動、ボランティアのおはなし会、図書室開放を実施。</p> <p>○音楽朝礼を設定し各学級の音楽活動を全校児童に発表。教職員も合唱を発表するなど児童との繋がりを作り、音楽活動の雰囲気をも高める活動を実施。</p> <p>○学期毎に、職員全員での支援交流会を開催。支援の手立て、自立の道筋を共有。SSW、SC、保健センター他外部機関と連携。</p> <p>○外国語活動において菅先生指導の下、新学習指導要領で外国語活動に使う「WE CAN」の指導の手引きを執筆し明治図書より出版。</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>○大阪府教育委員会が支援学級の授業を視察。ユニバーサルデザインを取り入れた授業を高く評価。</p> <p>○研究授業では、村教委、外部識者の指導助言を受け、授業改善に努めた。</p> <p>○「WE CAN」の指導の手引きを作成では、3ヶ月の期間で原稿を仕上げるなど協働して短期間で成果を上げた。さらに今年6月までに「LET'S TRY」の手引きを執筆。全国の書店で発売し、現在高く評価され、売れている。</p> <p>○児童の課題や成長に合わせた効果的な指導支援について、外部機関・スタッフと連携し、理解を深めながら、職員全体で研修を進めた。</p>
A	次年度に向けて	<p>○外国語活動 新学習指導要領移行期間に完全実施。</p> <p>○支援教育→研修会（5月・7月）をもつ。藤井寺、富田林両支援学校の訪問指導を依頼。対象児童の対応を保護者と協議しながら支援。</p> <p>○読書活動→推進継続</p> <p>○道徳の評価のあり方の研究の継続</p>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<p>○ユニバーサルデザイン教育の推進 「ともに学び、ともに育つ」学校づくりを通して集団の中で一人ひとりを尊重し、ちがいを認め合いながら、自尊感情を高め、互いを大切にする態度を育む取り組みを進める。</p> <p>○道徳教育の推進 教科化を見据えたカリキュラム、評価の見直しを進める。</p> <p>○食育の充実 食に関する指導の全体計画に基づいた、食育の実践。</p> <p>○体力づくりの推進 アクションプランに基づいた、健康安全・体育的行事の実践。</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>○全教職員が「ユニバーサルデザイン」の学校づくりという重点目標を強く意識し、日々の授業を実践</p> <p>○道徳の文章による評価について研究。具体的な文例を作成。全価値項目を網羅した35時間の道徳授業を実践。</p> <p>○保健主事、保健給食担当と連携した栄養教諭による食育授業、給食時間帯の食指導。アレルギー対応マニュアルに基づく面談を毎月実施</p> <p>○アクションプランに基づいて計画的に健康安全・体育的行事を実施</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>○支援交流会で全教職員が研究を深め、ユニバーサルデザインを取り入れた教育活動について全教職員が意識。教室環境や授業で実践</p> <p>○道徳の評価について、道徳教育推進教師を中心に研修。全学年で実際の授業実践から具体的に評価を実施。評価方法について方針を決定。</p> <p>○「おはし」「おさかなの食べ方」等の授業を栄養教諭と担任が協力して実践し成果をあげた。保護者向けにも給食試食会に合わせた食育（親学習）を実施でき、成果があった。</p> <p>○スポーツテストの結果では、前年度よりも成績がよくなった。</p>
A	次年度に向けて	<p>○ユニバーサルデザイン教育→支援学級が3クラス体制の2年目となり、より一層の充実を目指す。</p> <p>○道徳教育の推進→通知表に具体的に評価を実施。研究授業や評価研究の継続</p> <p>○食育の充実→村の食育担当者連絡協議会の内容も反映しながら、より一層の充実。「おさかなデー」などの取り組みの継続。</p> <p>○体力づくり→なわとび教室に重点を置き全学年でなわとびの技能を高める。運動会 マラソン大会などは「めあて」をしっかりと共有した取り組みを行う</p>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	<p>○<u>生命尊重の取組み・防災教育の推進</u></p> <p>大規模災害を想定した地域、行政等と連携した取組み、主体的に判断・行動する力を育む防災教育・安全教育の充実。</p> <p>○<u>いじめ・虐待防止</u></p> <p>基本方針に即し、気になる児童についての情報交換、アンケートの分析を生かした、いじめ・虐待の防止・対応。SC、SSW、家庭児童相談員との効果的な連携の推進。</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>○5年生対象に、大雨・洪水・落雷・竜巻から身を守ろうというテーマで、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科と合科の大阪管区气象台による授業を実施。</li> <li>・防災学習週間を設定して大阪管区气象台提供の教材を利用した防災教育を実施。</li> <li>・計画的に防災訓練を実施、予告しない避難訓練を大きな避難訓練の事後に実施</li> <li>・児童引き渡し訓練を参観日に実施。</li> <li>・防災士を講師に招いての研修会を区長や保護者の参加も得て実施</li> </ul> <p>○職員全体で、「気になる子どもの様子」を頻繁に情報交換。</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>○大阪管区气象台と安定的な連携ができています。气象台の担当官が本校の教職員の要望や意見を取り入れて教材開発。</p> <p>○子供が直面する課題、いじめの早期発見など、複数で、また、チームで対応。外部組織の担当も入ったケース会議も開催。</p>
A	次年度に向けて	<p>○避難訓練→学期に1回、児童に事前に知らせない避難訓練を引き続き実施。</p> <p>○これまで積み重ねてきた防災教育の維持。</p> <p>○「心の体とくらしのアンケート」を毎月実施の継続。職員会議に近い時期の実施として全教職員で情報共有。</p>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		IV 開かれた学校づくり
P	重点目標	<p>○ふるさと（千早赤阪村）を誇りに思い、地域の人や地域の伝統に支えられた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援地域コーディネーターを核にした学校支援地域本部事業を進め、支援ボランティアに支えられたさまざまな体験活動を組織に行う仕組みを構築する。</li> <li>・地域社会の一員として家庭・地域・社会とつながり、支え合いながら明るく元気な教室・学校にする。</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<p>○学校支援地域本部の組織づくり。学校支援地域コーディネーターを位置づけての実施 学校支援地域本部総会の実施</p> <p>○金剛登山引率支援、クラブ活動支援、花育、読み聞かせ、陶芸教室、家庭科授業支援を学校支援地域本部事業として位置づけて実施</p> <p>○防災研修会への参加依頼。PTA活動（子ども110番の旗の家、危険箇所看板作り・設置）、PTA学級事業、給食試食会・学習会 子ども安全見守り隊のボランティア日常活動。</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>○学校支援地域本部→地域コーディネーターを3名位置づけ毎月の定期会議を開催。6月と3月に「総会」を開催。ボランティア支援活動の成果と課題を共有、地域コーディネーターを核とした組織作りの確立</p> <p>○防災研修会を実施。区長、自治会長、保護者の参加を得る。給食試食会での親学習を実施し、保護者への貴重な啓発の機会となった。</p>
A	次年度に向けて	<p>○ボランティア支援→ご協力いただける範囲で継続。 金剛登山→実施時期を検討し5月に実施。</p> <p>○学校支援地域本部→地域コーディネーターを核とした組織で活動推進。</p> <p>○防災行事→継続実施。</p> <p>○子ども安全見守り隊の方へ→継続依頼。啓発グッズの配布</p>

## 4. 教育自己評価

### 【教職員による評価】

- ・各欄「自己評価／成果と課題」の通り

### 【外部アンケート等】保護者による学校診断アンケート結果より

#### I 学力向上と教育力の充実

- ・基礎的な学力が定着に身についている 肯定的評価 → 95%
- ・授業は工夫されていてよく分かる 肯定的評価 → 90%

#### II 豊かでたくましい人間性の育成

- ・豊かな心をもった子供を育てている 肯定的評価 → 90%
- ・いろいろな体験学習に積極的に取り組んでいる 肯定的評価 → 95%

#### III 安全安心な学校づくりの推進

- ・安全に日頃からよく気配りしている 肯定的評価 → 95%

#### <その他自由意見>

- ・いじめの記事を子供と一緒に考える機会をつくってほしい。
- ・「学童クラブ」と連携をとれる関係を

#### IV 開かれた学校づくり

- ・学校は、保護者・地域の願いに応えている。 肯定的評価 → 93%
- ・学校や職員室は、気軽に訪問しやすい。 肯定的評価 → 81%
- ・学校全体の雰囲気は、明るく活発である。 肯定的評価 → 97%

## 5. 学校園関係者評価

<学校評議員会（6月20日・12月12日・3月12日開催）より>

- 「やさしさと笑顔いっぱいの学校」という目標が大変よい。やさしさが言葉や行動として表れることを目標にすればよい。
- 「例年通りではなくよりよいものを目指す姿勢」という目標がよい。  
自治会では毎年役員が替わり、例年通りになってしまうこと例年通りにしようとする人が多い。
- 参観が多くてよい。子供には「みているよ」というアピールができる。
- 学校支援本部の活動にも参加してみて、学校への敷居の高さがなくなった。
- 我々も行事の思い出は数々あるもの。行事で子供の心が育つ部分は大きい。金剛登山はすばらしい。
- 村の学校が村の誇りとしての金剛山にのぼるといふこの行事はすばらしい。  
伝統ある行事は続けるべき、子供はそれが印象に残る。長い目で見たら値打ちがある。外に出て行くリスクはあると思うがメリットを生かすように方法を考える事が大切。
- 縦割り班のつながりは「誇り」です。「誇り」は自慢ではない「誇り」と思うことが価値。
- 世界に出て行くには英語ができた方がよいので、特色である英語は発展して欲しい。
- 校長が作成編集されている「千早小吹台だより」に学校経営や考えが網羅されていてわかりやすくよく理解できる。この「千早小吹台だより」の活用が最良の広報活動だと思います。紙の色を貴校のイメージカラーのグリーンにするなど印象に残る工夫がよいと思います。
- 「やさしさと笑顔いっぱいの学校」などの目標を児童一人ひとりの実践にするための具体的なバロメーター（物差し）の構築が必要。
- 授業時間数との兼ね合いの中で、行事を確保していただいていることがよくわかった。しかし経験に勝るものはなし、子供たちには机上の勉強プラス、今しかできない体験をいっぱいさせほしい。全校遠足がなくなったのは残念。
- 学力向上という言葉が会議で出ましたが、学校の取り組みだけでなく家庭学習の効果も大きいと思う。授業数だけを増やせば学力が向上するというのは違うと思います。
- ボランティアに参加させていただくと学校の雰囲気や子供たちの様子がよくわかり、大変有意義。
- 学力のとらえ方について、点数になるものだけが学力ではなく、社会性や人間性も含めて学力だと思う。
- 将来生きる力も含めての学力であり、「全国学力・学習状況調査」の点数をあげるための訓練になってはいけない。社会性や大人になって自分で生きてゆける力を育てるという視点が大切。点数に左右されない方がよい。
- 「学校支援地域本部」の取り組みはすばらしい。この取り組みへの予算が付かないのなら議員さんにアドバイスをもらえようか。
- PTA役員全員が立候補であることは、この学校の姿を感じて自ら手をあげたのではないか。「やさしさと笑顔いっぱいの学校」につながっている。
- 非常時、鍵を持っている人がそんなときに限っていない時がある。そんなときにどうするのか。  
門を開けておく、複数の人が鍵を持っておく、など考えた方がよい。
- 音読発表会で声を出すという行為が大切。声を出すことや動作は「やさしさと笑顔いっぱいの学校」につながる。
- 英語教育を研究して実施しているといがすばらしい。今回の本の出版もすばらしいので、こういうことは宣伝しなければならない。遠慮や控えめな態度はいらない。知らしめるということも大切。
- 保護者アンケートの結果はプリントを配布するだけではなかなか周知できない。顔を見て説明する機会をつくった方がよい。説明があつてこそよくわかる。資料の効果的活用が大切。
- 子供は、今与えられていることが当たり前だと思うもの。本校で実践されている数々の特色ある取り組みの事実もきちんと説明してあげることが大切。登山や地域に応援されてのマラソンなどは大きな学校ではなかなか体験できない。
- 家庭教育の大切さについても伝えることが大切。
- 年間を通じて、教育内容がよく伝わってきている



## 6. 第三者評価

<大学教員による校内研修での指導助言より>

### ◇授業づくりについて

「外国語活動」：千早赤阪村では長年、外国語活動の研究を進めてきた。いよいよ次年度から新学習指導要領実施への移行期間となる。全国の学校ではその実施について、いろいろと悩みを聞くこともある。ぜひ、この学校で培ってきた指導力の総力をあげて、次年度からの2年間使用される「WE CAN!」の指導実践集を執筆協力してもらいたい。きっと全国の学校の役に立つ。